



2012年3月8日

お客様向け資料

BNP パリバインベストメント・パートナーズ株式会社

ブラジルの政策金利の引き下げについて

ブラジル中央銀行は、現地 2012 年 3 月 6 日・7 日の両日開催された COPOM（定例金融政策委員会）において、Selic（政策金利）を 0.75%引き下げ、年率 9.75%とすることを決定しました。ブラジル中央銀行の発表によれば、0.75%の引き下げに賛成した委員が 5 名、2 名は 0.5%の引き下げを主張したとされています。

ブラジル中央銀行は、世界経済の減速によるブラジル経済への影響を懸念して、2011 年 8 月の COPOM から金利引き下げを実施、8 月からの引き下げ幅の合計は 2.75%となっています。

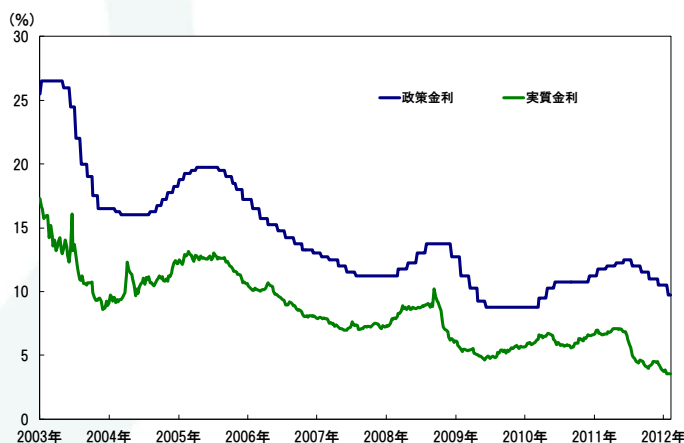
昨年第 4 四半期（10 月～12 月期）GDP 成長率は、農業部門や内需が主なけん引役となり、0.1%のマイナス成長となった第 3 四半期から回復し前期比+0.3%、前年同期比+1.4%となったものの、通年では、レアル高の影響などから 2003 年以降で 2 番目に低い+2.7%に留まりました。加えて、2012 年 1 月の鉱工業生産が前月比-2.1%、前年同月比-3.4%といずれも市場予想を大きく下回ったことで、ブラジル中央銀行は利下げ幅を 0.75%まで拡大したものと考えられます。

また、中国の温家宝首相が全人代で、2012 年の GDP の目標成長率を従来の 8.0%から 7.5%に引き下げたことや、欧州でもユーロ圏の昨年第 4 四半期 GDP 成長率改定値が前期比-0.3%となるなど、世界経済見通しに対する減速懸念が再度高まりつつあることも、利下げ幅拡大の背景と考えられます。

インフレはブラジル中央銀行の目標上限に近いことから、経済成長とインフレの安定の両方を達成するため、中銀は利下げ以外の政策を導入することもあると考えられますが、今回の利下げ後でもブラジルの金利水準は高く、利下げ余地があると見られ、政府・中央銀行が、当面はインフレ抑制よりもブラジル経済の更なる減速を防ぐことを優先課題としていることから、世界経済見通しの厳しさを背景に、今後も必要であれば利下げが行われると考えられます。

ブラジル経済のファンダメンタルズに大きな変化はないと考えられますが、引き続き対外的には厳しい環境は継続するとみられることから、当面は慎重な見方を採ってまいります。

ブラジル政策金利と実質金利の推移 (2003 年 2 月 1 日～2012 年 3 月 7 日)



2012年3月7日
10.50% → 9.75%へ
0.75%の引き下げ

* 政策金利：Selic を使用。
* 実質金利：名目金利とインフレ率を使用し算出

本資料は、BNP パリバアセットマネジメント ブラジルが作成した資料をもとに、BNP パリバインベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する当社の見解を提供することを目的として、2012 年 3 月 8 日に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できると思われる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。